

【第3回】 亘理町総合発展計画審議会

R7.4.11

次期総合発展計画策定に係る検討資料

【参考】総合発展計画の体系イメージ-----ページ番号 P.3

【参考】計画策定の状況と本日の議題-----ページ番号 P.4

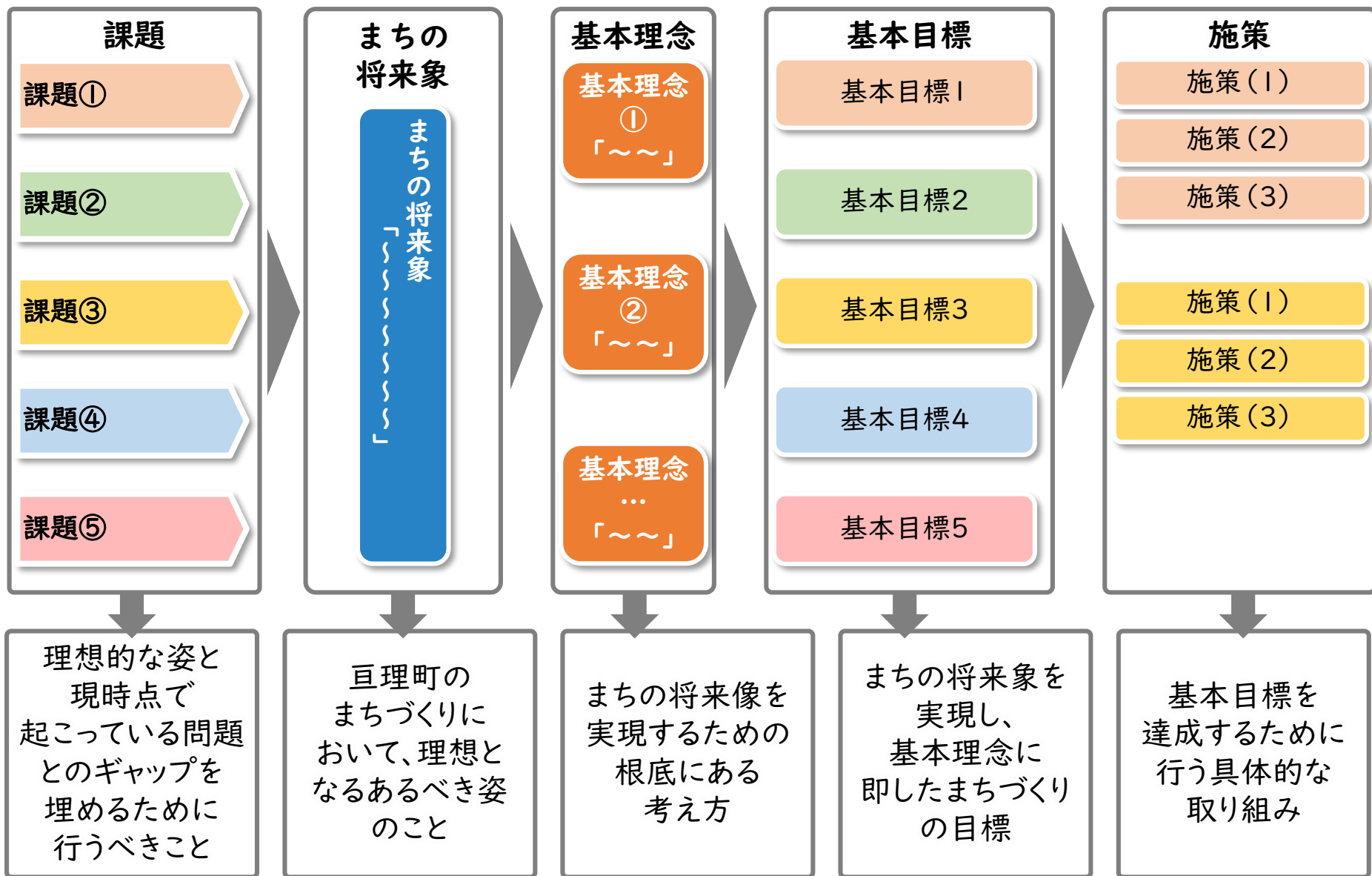
1. 亘理町の現状・課題・方向性について-----ページ番号 P.5

2. 人口ビジョン(案)について-----ページ番号 P.7

3. 目指すべきまちの将来像について-----ページ番号 P.13

4. 基本理念について-----ページ番号 P.18

5. 事前アンケート調査の結果とグループワーク-----ページ番号 P.20



令和6年度

令和7年度

《次期総合発展計画の策定》

基礎調査

実施済

町民意向調査

町民アンケート調査

中学生アンケート調査

中学生ワークショップ

実施済

施策実施状況調査

実施済

町長ヒアリング調査の実施

実施済

亶理町の現状・各種調査結果のまとめ

亶理町の特筆すべき主要課題の整理

基本構想の検討

将来都市象

基本理念

基本目標

前期基本計画の検討／施策体系の検討

本日の議題！

整合

本日の議題！

《亶理町人口ビジョン(第3期)の策定》

- ①人口動向分析
- ②将来人口の推計と分析
- ③人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察
- ④人口の将来展望の検討

《次期総合戦略の策定》

- ①現行戦略の評価
- ②基本目標の検討
- ③講ずべき施策に関する基本的方向の検討
- ④次期総合発展計画との整合性確認

(1) 第2回審議会の振り返り

現時点での課題

課題①人口減少・少子高齢化社会への対応

課題②地域コミュニティの更なる育成と他分野との連携

課題③町外流出の抑制

課題④若者世代の移住・定住の促進

課題⑤安心して生活できる公共交通ネットワークの充実

課題⑥地域産業の更なる発展に向けた“働く場”の創出

課題⑦豊かな地域資源の利活用の推進

課題⑧学力向上・心の豊かさ・健やかな体の発達に向けた人材育成

課題⑨財政の健全化と多様化する町民ニーズに対応する施設の維持・管理

導かれる大きな方向性

方向性① 町民を町に残す取り組み

方向性② 行政と地域の役割分担

方向性③ 移住・定住施策の強化

方向性④
移住・定住者を支える基盤づくり

方向性⑤ 既存施設の計画的統廃合

方向性⑥
既存施設・遊休地等の利活用

方向性⑦ 運用・運営体制の再構築

方向性⑧ 計画的な町政運営

(2) 庁内会議・第2回審議会等を踏まえて精査した課題

第2回審議会及び前ページで示した“現時点での課題”について、大きな分野別に以下の5つに集約

課題③町外流出の抑制

課題④若者世代の移住・定住の促進

課題⑥ 地域産業の更なる発展に向けた
“働く場”の創出

課題①（産業分野）

地域産業の更なる発展と移住・定住に向けた働く場の創出

課題①

人口減少・少子高齢化社会への対応

課題⑤安心して生活できる
公共交通ネットワークの充実

課題②（生活環境分野）亘理町らしい暮らしの実現に向けた
住環境整備と公共交通ネットワークの充実

課題⑧学力向上・心の豊かさ・健やかな
体の発達に向けた人材育成

課題③（教育文化分野）

次世代を担う人材を育成する子育て・教育環境の整備

課題①

人口減少・少子高齢化社会への対応

課題②地域コミュニティの更なる育成
と他分野との連携

課題④（健康福祉分野）

全ての人が自分らしく暮らすことができる支援・体制の構築

課題②地域コミュニティの更なる育成
と他分野との連携

課題⑦豊かな地域資源の利活用の推進

課題⑨財政の健全化と多様化する町民
ニーズに対応する施設の維持・管理

課題⑤（町政運営分野）

財政の健全化と多様化する町民ニーズに対応する施設の維持・管理

2. 人口ビジョン（案）について

（1）現行の人口ビジョン・前回の社人研推計の振り返り

－現行の人口ビジョンの目標人口－

▶ 短期的目標：令和7（2025）年

⇒ 人口流入の動きを促しながら、「交流・定住促進事業」を積極的に推進し、人口減少を最小限に抑える。

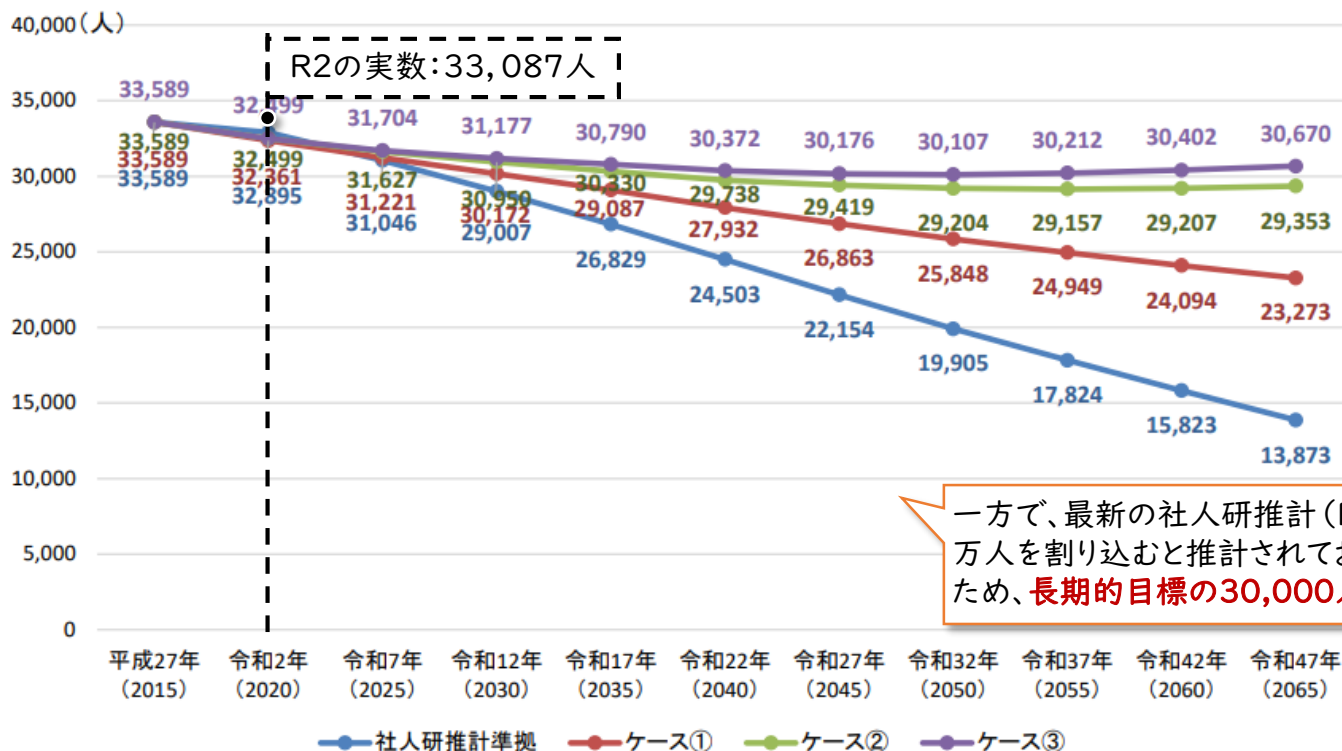
▶ 中期的目標：令和12（2030）年

⇒ 短期期間に展開する「交流・定住促進事業」を開花させ、人口減少の底打ちを目指す。

▶ 長期的目標：令和47（2065）年

⇒ 人口30,000人規模の維持及び人口構造の若返りを目指す。

前回の社人研推計では、令和2（2020）年で32,895人と推計されていたが、実数は33,087人。特に目標と合致した社会増のため、目標達成と捉えることができる。



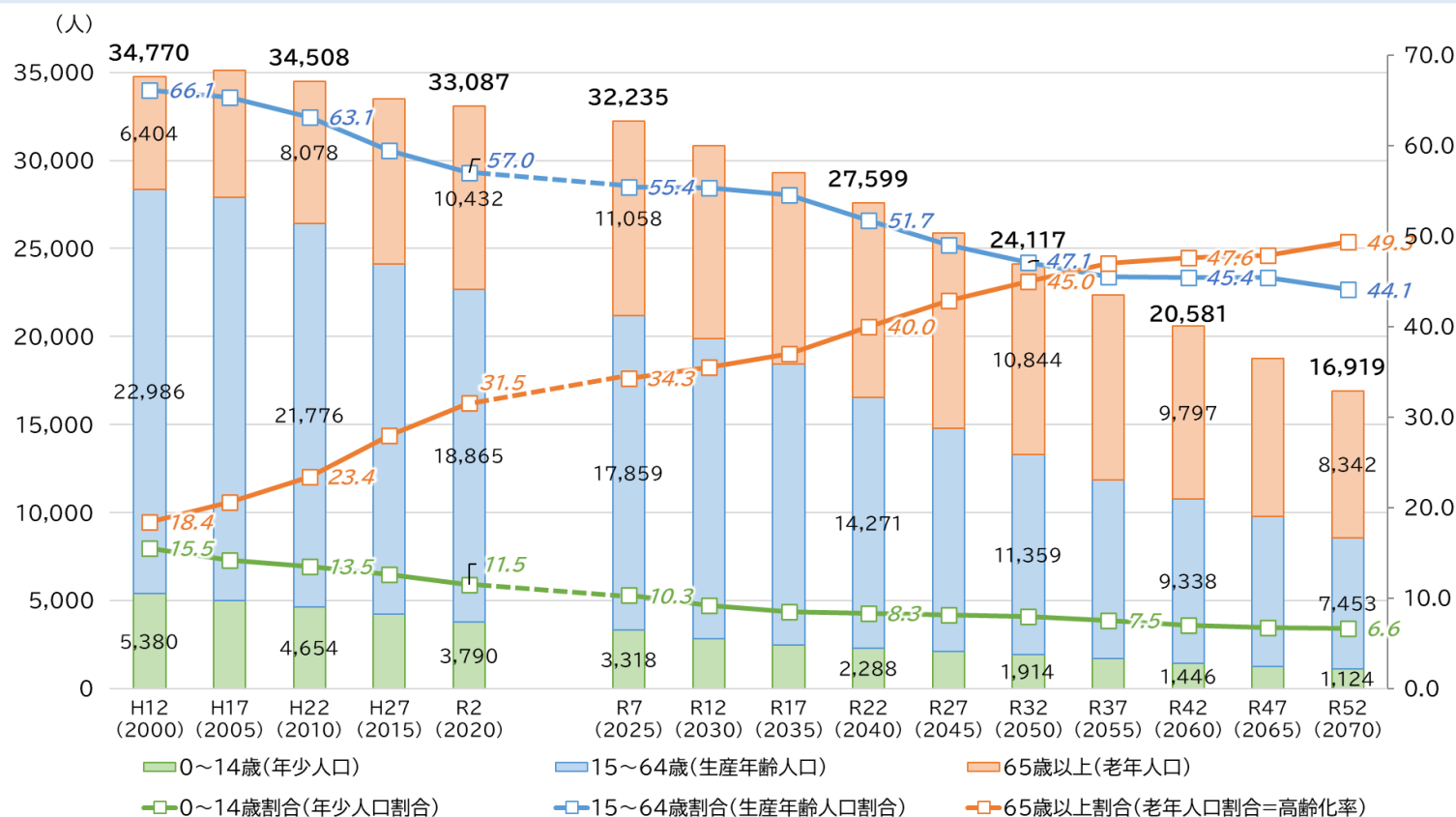
一方で、最新の社人研推計（R5.12）では令和17（2035）年には3万人を割り込むと推計されており、25年前倒しのペースとなっているため、長期的目標の30,000人は現実的に難しい可能性がある。

（2）将来人口の推計と分析

-国による将来人口の推計-

▶ 国から提供された推計ツールを用いて、最新の社人研推計と整合的な将来の生残率、純移動率、子ども女性比及び0-4歳性比の各指標を利用したコーホート要因法による長期的な人口推計（以下、「基準推計」という。）を行った。

▶ その結果、令和32（2050）年の人口は24,117人と、令和2（2020）年の約73%まで減少すると試算される。



2. 人口ビジョン（案）について

ページ番号 P.9

（3）人口の将来展望

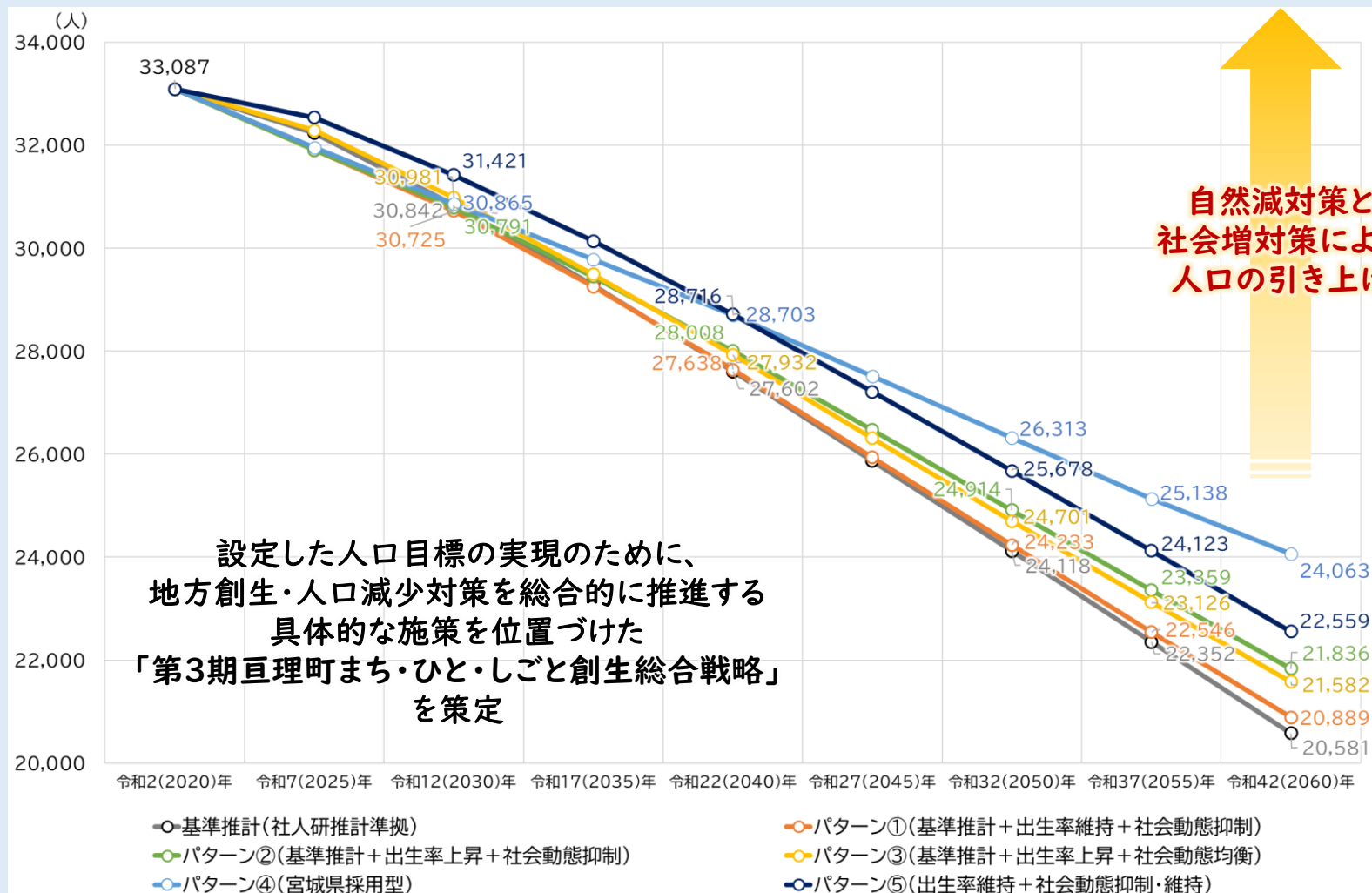
-人口推計の条件- ☒ これまでの結果を踏まえ、基準推計を含む全6パターンの推計を行った。推計の条件は以下の通り。

推計パターン		自然増減	社会増減	2060年人口
基準推計		社人研推計と整合的な、将来の生残率、子ども女性比及び0-4歳性比の各指標を利用	社人研推計と整合的な純移動率を利用	20,581人
①	基準推計 +出生率維持 +社会動態抑制	合計特殊出生率を過去5年間の実績値である1.25で推移していくと仮定	2025（令和7）年以降の純移動率が1/2になると仮定	20,889人
②	基準推計 +出生率上昇 +社会動態抑制	2040（令和22）年までに、合計特殊出生率が宮城県内で最も高い女川町の1.54 [※] に、段階的に上昇すると仮定し、その後はその水準が維持されると仮定。	①に同じ	21,836人
③	基準推計 +出生率上昇 +社会動態均衡	②に同じ	2030（令和12）年以降の転入・転出が均衡（社会増減=0）になると仮定	21,582人
④	基準推計 +出生率向上 +社会動態均衡 （宮城県人口 ビジョン踏襲型）	合計特殊出生率が、2030年に1.6、2035年に1.8、2040年に2.07まで上昇すると仮定。その後はその水準を維持。	2040年までの間に年間2,000人程度、その後2060年までの間に年間3,000人程度の「人口流入増」又は「人口流出抑止」により社会減を解消する ⇒令和22（2040）年以降の転入・転出が均衡（社会増減=0）になると仮定	24,063人
⑤	基準推計 +出生率維持 +社会動態抑制・維持	①に同じ	2025（令和7）年以降、純移動率がプラスの年代は1%上乗せし、マイナスの年代は1/2になると仮定。	22,559人

※宮城県内の市町村における平成30（2018）年～令和4（2022）年における合計特殊出生率は、女川町（1.54）、南三陸町（1.46）、多賀城市（1.44）、大和町（1.38）、登米市（1.37）、岩沼市/利府町（1.35）の順で、高くなっている。

（4）人口の将来展望

-推計結果- ▢ 基準推計を含む全6パターンの推計を行った。推計結果は以下の通り。



（４）人口の将来展望

【参考】基準推計を含む全6パターンの推計結果の詳細を下記の通り示す。

推計パターン	2060年人口	2060年の年少／割合	2060年の生産年齢人口／割合	2060年の老年人口／割合
基準推計	20,581人	1,446人／7.0%	9,338／45.4%	9,797／47.6%
① 基準推計 ＋出生率維持 ＋社会動態抑制	20,889人	1,581人／7.6%	10,279／49.2%	9,029／43.2%
② 基準推計 ＋出生率上昇 ＋社会動態抑制	21,836人	2,029人／9.3%	10,778／49.4%	9,029／41.3%
③ 基準推計 ＋出生率上昇 ＋社会動態均衡	21,582人	2,111人／9.8%	10,409／48.2%	9,061／42.0%
④ 基準推計 ＋出生率向上 ＋社会動態均衡 （宮城県人口 ビジョン踏襲型）	24,063人	3,166人／13.2%	12,364／51.4%	8,534／35.5%
⑤ 基準推計 ＋出生率維持 ＋社会動態抑制・維持	22,559人	1,753人／7.8%	10,971／48.6%	9,836／43.6%

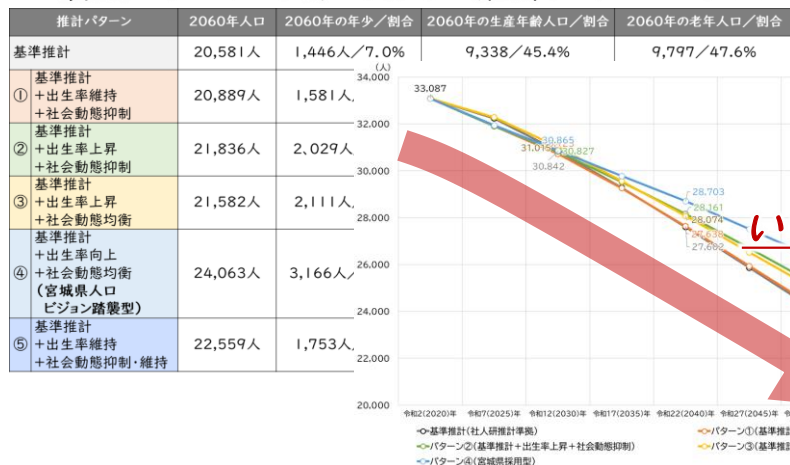
【参考】令和2年（国勢調査）時の人口と割合

- ▶年少人口／割合：3,790人／11.5%
- ▶生産年齢人口／割合：18,865人／57.0%
- ▶老年人口／割合：10,432人／31.5%

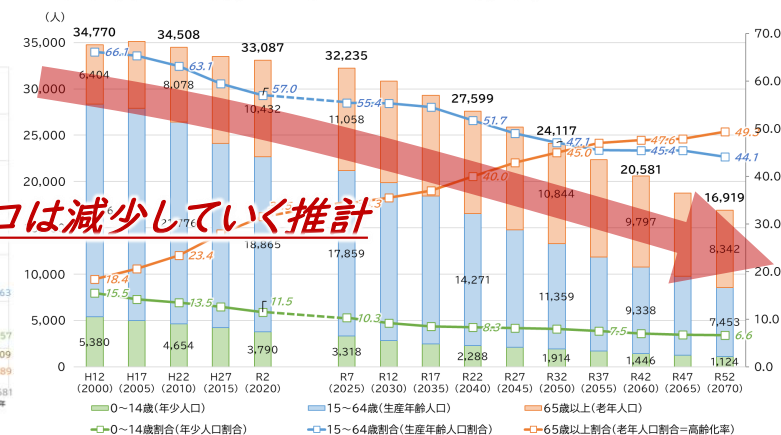
（5）人口推計等に関する基本的な考え方

－人口推計に関する現状－

《複数パターンで行った人口推計シミュレーション》



《国（社人研）が示した人口推計》



- ▶現状を踏まえると、将来的に人口維持もしくは増加させていくことは現実的に難しいと思われる。その一方で、自然増減（出生に関する部分）や社会増減（転入・転出に関する部分）対策を講じることで、できる限り人口減少を抑制する（遅れさせる）ことを意識したい
- ▶そのため将来の人口は、減少していくという前提のもと、議論をお願いしたい。
人口減少の抑制に向けて…

- ▶高校卒業後の進学等について、必然的に町を離れる選択肢が多くならざるを得ない一方で、そういう方々に戻ってきってもらうことを意識したい。
- ▶転入者は若い世代が多く、継続的に選ばれるまちとなることを意識したい。

【参考：現行計画の将来都市象】

将来都市像設定のキーワード

- 亘理町の自然環境 … 『山と川、里と海』がワンセット
⇒ 様々な環境をいかし、町民も来訪者も豊かに暮らし・過ごせる環境を形成
- 亘理町の歴史 … 町民がこれまで築き上げてきた歴史や文化
⇒ これまでの『時代』の流れ（時の流れ）を未来に『つなぐ』環境を形成
- 亘理町の課題 … 大きな課題は定住促進
⇒ 暮す『人』・訪れる『人』が亘理町で過ごす時間の価値を高める環境を形成
⇒ 暮す『人』・訪れる『人』の交流（『つながり』）を通じて課題へ対応

【将来都市像】

（時の流れ）

山と川、里と海を人と時代でつなぐまち

3. 目指すべきまちの将来像について

ページ番号 P.14

(1) 現状考えられるまちの将来像（案）

考え方

- ▶中学生WSにて、亘理町の“現在の良さを維持・向上させていく”という想いや“都会過ぎない亘理らしさ”、“都会ではないまち”という想いや現行計画の“山・川・里・海”を踏襲し、“自然”というキーワードに集約
- ▶現行計画の“人と時代でつなぐまち”のその先にある姿として、町民全員が“笑顔”で過ごせることを表現
- ▶亘理町の4地区ごとに異なる歴史や文化、地域事情を踏襲していきながらも、今後の新たなまちづくりの結果として、元から住んでいる方、今後転入する方、Uターンする方など多様なバックグラウンドを持つ町民を意識し、“みんな”を強調するほか、中学生WSにて、“やりたいことができるまち”という想いを踏まえて、“夢が叶うまち”、“希望が実現できる”ことを表現
- ▶また、亘理町を“住む場所”、“働く場所”、“戻って来れる場所”として選択する人すべてが、その理想的な暮らしを実現できるまちとすることを表現
- ▶多様なバックグラウンドを持つ人々により形成されてきた亘理町について、この先10年先の亘理町を担う人材育成、これまで築き上げてきた歴史や文化、風習等を次世代に受け継ぐことを表現
- ▶町民アンケート調査における希望する将来のまちの姿を踏まえて“心身ともに健康であること”や“環境面”、中学生WSにおける“自然の豊かさ”や“衛生環境”等を踏まえた表現

まちの将来象（案）

1

自然と調和し、
みんなの笑顔があふれるまち わたり

2

みんなの夢が叶い、
希望が実現できるまち わたり

3

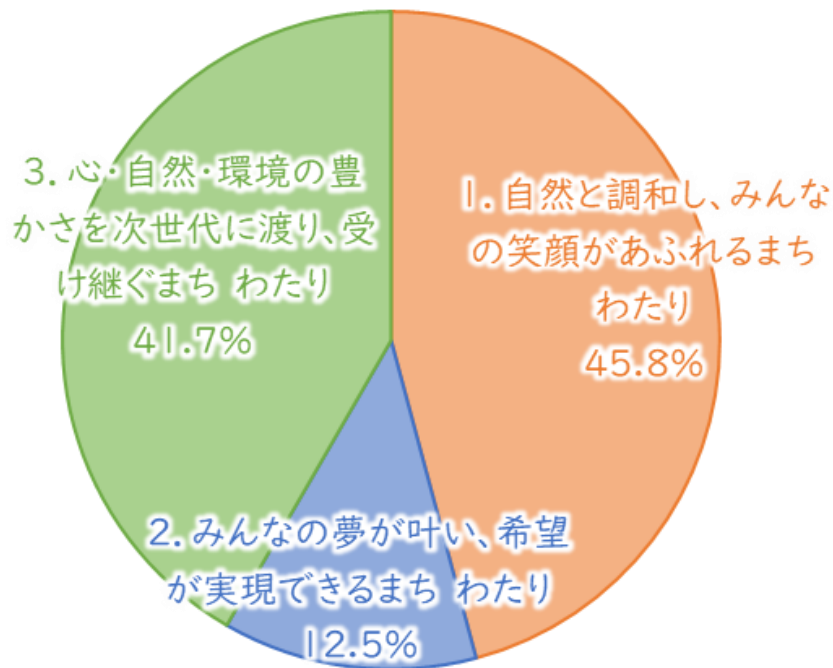
心・自然・環境の豊かさを
次世代に渡し、受け継ぐまちわたり

3. 目指すべきまちの将来像について

ページ番号 P.15

“目指すべきまちの将来像”に係る事前アンケート調査の結果

Q1.“目指すべきまちの将来像”について、
良いと思う将来像とその理由について



Q2.提示している3案について、
良くない点と入れ込むべき視点について

- ▶古き良いものを新しい視点で表現していても良いのでは？
- ▶分かりやすく、親しみやすく、柔軟性のある言葉として、幅広い層に受け入れられると思われるため、将来都市象という言葉ではなく、「未来のふるさとプロジェクト」という言葉にしてはどうか。
- ▶インパクトが弱いため、目指すべき強力なイメージが表現できるとよいと思う。亘理町ならではの文言。（例：宮城県一、東北一と言われる温暖な環境を表現、その中で安心して子育てできることや人生を楽しむこと。おしゃれなまち等）
- ▶中学生の意見は取り入れられているが、子育て世代の意見が弱いと思う。
- ▶「人が集う」「町の発展」などを入れ込み、前向きな姿勢が欲しい。

※アンケート総回答数 28件うち問1の回答数 24件
※3案全てが良いと思わないと思う方を除いているため、問1の回答数は24件となっている。

3. 目指すべきまちの将来像について

“目指すべきまちの将来像”に係る審議会委員事前アンケート調査の結果”

Q1.“目指すべきまちの将来像”について、良いと思う将来像とその理由について

「1. 自然と調和し、みんなの笑顔があふれるまちわたり」を選択した方の理由（要約）

- ▶ 背伸びをしていない将来像であるため
- ▶ 遊具施設を充実し、子どもの笑顔があふれる街になればいいため
- ▶ 都会すぎない亘理らしさ、住みやすさを今後も大切にし、次世代へつなぎたいと考えており、その意味で中学生ワークショップによる内容に共鳴したため
- ▶ 分かりやすくイメージしやすいから
- ▶ 山、川、海、平野が存在している環境下で、人の温厚さがあればこんな良い町はないと思うから



「1. 自然と調和し、～」を選択しつつも、追記した方が良い考え方や文言の意見

- ▶ 人口減少傾向は顕著に現れているので、更なる企業誘致、住宅団地の団地の開発、集客の出来る飲食店街、商業施設、遊び場を作り人口増を目指す視点
- ▶ 直接的に海（自然）という文言ではなく、海のイメージを活用すればよいと思う
- ▶ 「自然と調和し」の文言が分かりづらい。「海や山に囲まれた自然の中で生活ができ、みんなの笑顔があふれるまちわたり」という意味合いではないか。
- ▶ 都会に住まずとも、自然の中で悠々と暮らした方が精神的にも充実した生活が送れると考えており、そのような視点が必要

3. 目指すべきまちの将来像について

ページ番号 P.17

“目指すべきまちの将来像”に係る審議会委員事前アンケート調査の結果”

Q1.“目指すべきまちの将来像”について、良いと思う将来像とその理由について

「2. みんなの夢が叶い、希望が実現できるまちわたり」を選択した方の理由（要約）

- ▶将来、夢が叶い希望が実現できる町になるのなら素晴らしいから
- ▶自然は豊か過ぎるほどあるが、それだけでは生きていけないと感じている
- ▶日々の生活において抱えている問題や不安について、個々人だけではどうにもできないことも多々ある中で、安心して将来を描く事ができるような将来像が良い

「3. 心・自然・環境の豊かさを次世代に渡し、受け継ぐまちわたり」を選択した方の理由（要約）

- ▶気候温暖で、海山川の自然に恵まれた土地で、住む人達も温かい心をもって隣組同士支え合ってきた過去があり、その恵まれた環境をを次世代にしっかりと受け継ぎたいと願っているから
- ▶自然（特に海）を身近に感じられ、のんびりと心穏やかに過ごすことができている亘理の環境の良さは保持していった欲しいと考えているから
- ▶阿武隈川、阿武隈山地、太平洋と自然豊かな環境に恵まれており、この価値を子どもたちに伝え継いでいきたいから
- ▶後継者不足のため、一次・二次産業が衰退する傾向にあると思い、次世代に受け継ぐ必要性があると感じているから



「3. 心・自然・環境の豊かさ～」を選択しつつも、追記した方が良い考え方や文言の意見

- ▶安全なところで安心して暮らせるまち／▶山あり、海ありの自然を活用できるまち
- ／▶農業、漁業が安定し、活気ある生活ができるまち。

4. 基本理念について

ページ番号 P.18

(1) 考えられるまちづくりの基本理念（案）

まちの将来像（案）

1

自然と調和し、
みんなの笑顔があふれるまち わたり

2

みんなの夢が叶い、
希望が実現できるまち わたり

3

心・自然・環境の豊かさを
次世代に渡し、受け継ぐまちわたり

基本理念（案）

（案）①支え合い認め合う町民とともに進めるひと・行政づくり

（案）②住み続けたい魅力ある地域資源を活かしたまちづくり

（案）③豊かな自然との共生と安全で安心できるくらしづくり

（案）④心安らぎ、心豊かに暮らせるまちづくり

（案）⑤人と人のつながりがあるまちづくり

（案）⑥
みんなの個性や価値観を認め、誰もがチャレンジできるまちづくり

（案）⑦豊かな感性を育み、多様性にあふれるまちづくり

（案）⑧ 郷土を愛し、ずっと居続けたいと思うまちづくり

4. 基本理念について

ページ番号 P.19

《参考》職員グループワークでの基本理念（案）

① 大人も子供も笑顔になる町 亘理

② 将来の定住人口の確保に向けて
～どこさ行っても忘れない また帰りたくなる町～

③ みんなの力でつくる 進化し続けるまち わたり

④ 一度来たら帰りたくない やみつきになるまち
～笑顔の交差点 スマイルスクランブル 亘理～

⑤ もっと働きたくなる、住みたいまち わたり

⑥ もっと気軽にめぐる町 わたり

⑦ みんなでつくる町 わたり

⑧ オールインクルーシブ わたり

⑨ よりそうまち わたり

⑩ 19時ダヨ！わたり自宅へ全員集合！

⑪ みんなで創る 未来のわたり

⑫ 「明日どこいく？」 「わたり！」

⑬ 亘理町
～家族の笑顔あふれる あたたかい町～

⑭ 住む人も、訪れる人もみな笑顔になれる町

⑮ 生涯に亘り 住みたい理想のまち わたり

Q3-1.“目指すべきまちの将来像”案について

- ▶自慢出来る町。行きたいと思える町。
- ▶防災・減災に強く、地域資源を活かしながら持続可能な産業を発展させ、交流と定住を促進する町
- ▶人口減少に対応したまちづくり
- ▶ちょうどいいまちわたり
- ▶町民が安全で安心に暮らせ、人口の減少に伴い交通や買い物の利便性を高めるとともに、道路・住環境を整備し、医療福祉と平行して子育て環境を充実させる暮らしやすい町
- ▶楽しさあふれるまちわたり
- ▶また来たくなる町、移住したくなる町、行きたくなる町
- ▶若い子育て世代を中心に、お年寄りも住みやすい町、休みにわざわざ行きたくなる町
- ▶自然豊かな亘理、その自然に心まで壊されたあの震災。しかし過去を塗り替える程の希望を持ち、それを実現させる光ある亘理
- ▶次世代に残さなくてはいけない環境作りや地場産業の後継者問題等の課題を解決しながら、魅力ある亘理町を世界にアップしていく
- ▶公園の充実と遊具施設を充実し、若い親子が住みやすい街
- ▶みんなでつなげる未来の亘理
- ▶子供たちが将来ともに住みたくある夢のあるまち／安心して子育てのできるまち
- ▶子育てからお墓まで安心して暮らせる町
- ▶人が集い、みんな笑顔で発展続けるわたり
- ▶人と自然と歴史が融合し、「笑顔」を移し合うまちわたり
- ▶若い人たちが希望を持って結婚して住める町
- ▶自然に溢れ、住む人を笑顔にする“美しい田園風景のある”まち

Q3-2.“目指すべきまちの将来像”案の達成に向けて取り組むべきことについて

“亘理町の魅力的なイベントと地域資源の活用による産業振興”

- ▶大規模なイベントの開催や観光資源の開発
- ▶県外や他県からの観光客を呼び込み、地域の活性化を図る
- ▶山や川、海などの地域資源、農業や漁業などの地域資源を活用し、特産品のブランド化や6次産業化を推進し、地域経済の活性化と雇用の創出を目指す
- ▶地域資源を活かした観光や体験プログラム

“住みやすい環境づくりと移住促進”

- ▶若者や子育て世代の定住を促進するため、住宅補助や就労支援などの支援策を充実
- ▶移住を希望する人々に向けて、自然豊かな環境やアクセスの良さをアピールし、町に魅力を感じてもらう

“防災・安全な町づくり”

- ▶防災意識を高め、防災教育や地域防災訓練を強化するとともに、災害に強いインフラの整備を進める
- ▶住民の安全と安心な暮らしを支えるため、公共交通の整備や住環境の改善を進める

“地域コミュニティの活性化”

- ▶地域コミュニティを活性化し、世代間交流や住民のつながりを強化
- ▶町民の意見を反映し、行政と住民が協力して施策を進めることで、住みやすく協力的な地域社会をつくる

“自然環境の保全と活用”

- ▶亘理町独自の規制を設け、自然環境の保全
- ▶農業や森林の持続可能な活用を進め、自然と人が調和する町づくりを目指す

Q4.これまでの“まちづくり”全般に係る意見や考えについて

- ▶亘理町のまちづくりには新しい挑戦が増え、町の雰囲気改善していると感じている。民間主導の地域作りは続けてほしいが、地域で頑張っている事業者や何かを始めたい人たちがのびのびと活動できる素地づくりのサポートについて、地域事業者と協力して進めてほしい。
- ▶職員体制を長期的に育てていく必要がある。
- ▶亘理町の特産品や名物の活用が不足しており、新たな特産品の開発も必要。温暖化により荒浜漁港でもこれまでにない魚も取れるが、活用できていない。
- ▶地域の活性化には柔軟な対応が求められている。
- ▶町内の施設やイベントの充実が必要。
- ▶シニア向けの健康施設も不足しており、地域コミュニティ活動の活性化が必要。
- ▶亘理町の将来像については、仙台市のベッドタウン化を目指すのではなく、「亘理らしさ」を活かした特色あるまちづくりを進めるべき。
- ▶町民との協力が不可欠であり、インフラ整備や地域の活性化を進めるために、若い起業家の誘致や観光資源の開発が重要。
- ▶町独自の移住支援を行っても近隣市町との人の取り合いになってしまうのではないかと。住んでいる人を転出させないよう住み続けたいと思えるような取り組みが必要
- ▶進学・就職等で町を離れても、地元を愛することを忘れないよう、子どもの頃からの郷土愛を醸成する取り組みが重要である。

Q5.第6次巨理町総合発展計画において、優先的・重点的に取り組むべき分野と理由について

“教育分野・子育て支援分野”

- ▶教育環境を充実させ、子どもたちが安心して育つことができるようにすること
- ▶子育て支援や家庭教育支援を強化し、地域全体で子どもたちを支える仕組みを作ること
- ▶未来を支える若い世代が定住しないと活力が失われるから

“農業・水産業、産業振興、観光分野”

- ▶強みである農業・漁業を中心に、将来を支える大きな要素となりえると思うから
- ▶持続可能な産業があることは町民の安心感の向上につながり、自然との調和という将来像にも合致するから
- ▶地域経済を活性化、経済循環を高めることが重要だから
- ▶観光資源を活用し、観光客が継続的に訪れる仕組みを構築し、外部との交流を生み出すことやお金を使ってもらうことが町の活性化につながるから
- ▶巨理に行く機会を作り、その後の移住定住意向に繋がる可能性があるから

“人口減少対策分野”

- ▶若者・子育て世代の定住を促進のために、雇用機会を増やし、住みやすい環境を整えることで、移住者や町に戻る人々が増加するから

“医療・健康福祉分野”

- ▶高齢者から子どもまで全世代が住みやすい環境のために必要だから
- ▶高齢化が進む中で、高齢者が安心して暮らせる環境の整備を行うことで、高齢者が住み続けたい町となるから
- ▶高齢者が多くなっていくと、防災・災害に強いまちづくりが必要だから